

QUINZaine  
DIRECTORS' FORTNIGHT  
CANNES 2022

NYFF60  
2022 Official Selection

Official Selection  
Toronto International Film Festival 2022

私たちとはまだ、人間を知らない

# DE HUMANI CORPORIS FABRICA

## 人体の構造について

監督:ルーシアン・キャステス=テイラー、ヴェレナ・バラベル  
『ラヴィアン』『カニバ』「刃入肉事件38年目の真実」

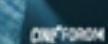
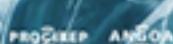
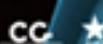
製作:ポール・ジギアス(『ぼくの名前はエッキー』)、マックス・カルリ、ヴァレンティナ・ノバティ  
共同プロデューサー:シャルル・シリベール(『アネット』)、ルーシアン・キャステス=テイラー、ヴェレナ・バラベル

原題:De Humani Corporis Fabrica 時間:118分 2022年 フランス・スイス・アメリカ

フランス語 日本語字幕:日本邦文社 著作権:日本邦文社  
制作: TBSテレビ 配給:ランスマーチャンダイジング TBSテレビ

生と死をつなぐ場所、そこで働く人々。彼らの視点で見つめるのは人間。肉体。その内部。

a film by VERENA PARAVEL AND LUCIEN CASTAING-TAYLOR produced by VERENA PARAVEL and LUCIEN CASTAING-TAYLOR film assistant director, camera, editing JULIETTE PICOLLOT picture design PATRICK LINDENMAIER sound design NICOLAS BECKER sound editing MATHIEU MARCHELET and RALPH DUMONT sound mixing BRUNO EHINGER coproduced VALENTINA NOVATI, CHARLES GILLIBERT, PAULENE GYGAX, MAX KARLI, VERENA PARAVEL, LUCIEN CASTAING-TAYLOR produced by NORTE PRODUCTIONS, EXP CINEMA, RITA PRODUCTIONS, SJET with the support of CNC, REGION ILE-DE-FRANCE in partnership with CNC, PROCIREP AND ANGOA, OFFICE FEDERAL DE LA CULTURE (OFC) with the participation of CINEFORUM and the support of L'OFFICINE BERNARD, SUCES PASSAGE ANTENNE SRG SSR, FESTIVAL DU FILM DE LOCARNO - FILM AFTER TOMORROW - MOST INNOVATIVE FILM, LES FILMS DU LOSANGE, HARVARD UNIVERSITY: SENSORY ETHNOGRAPHY LAB, FILM STUDY CENTER, DIVISION OF THE ARTS and THE HUMANITIES, FACULTY OF ARTS AND SCIENCES with the support of ASSISTANCE PUBLIQUE - HOPITALS DE PARIS, BEAUTON, BICHAT, CLAUDE-BERNARD, BRETONNEAU LOUIS-MOURIER, DEMAND-TROUSSEAU distribution france and international sales LES FILMS DU LOSANGE



# お見せしよう、“生命”の裏側を。



脳室開口術

胎盤早期剥離  
緊急帝王切開

網膜硝子体手術

ふだんは見られない手術時の臓器や  
内視鏡の映像が見られる。  
これは貴重な体験になると思う。

養老孟司(東京大学名誉教授)

『リヴァイアサン』(04)で世界的な名声を集めたルーシアン・キャステース=ティラーとヴェレナ・バラベルのハーバード大学感覚人類学研究所の人類学者監督コンビ。彼らの新作はパリ北部近郊の5つの病院のオペ室を舞台に、医師視点のカメラや内視鏡を使い、脳や大腸、眼球、男性器など様々な外科手術や帝王切開の模様を医師の視点で見つめていく。最新の医療用カメラの映像精度には驚かされるが、それだけではなく、死と隣り合わせの医療従事者達の日常も描かれ、「社会を映す鏡」としての病院自体の解剖研究としても観ることができる。

本作はカンヌ国際映画祭監督週間で上映されたのち、現在もメタクリティックのスコア92、ロッテントマト95%FRESHと高く評価されている。

## 人体の構造について

カンヌ国際映画祭 監督週間出品 原題: De Humani Corporis Fabrica / 2022年 / フランス・スイス・アメリカ / フランス語 / 日本語字幕・播音裕充 / 字幕監修: 養老孟司

監督: ルーシアン・キャステース=ティラー、ヴェレナ・バラベル(『リヴァイアサン』『カニバ』「切り人肉事件38年目の真実』)

製作: ポーリス・ジギャクス(『ぼくの名前はズッキーニ』)、マックス・カルリ、ヴァレンティナ・ノヴァティ

共同プロデューサー: シャルル・ジリベル(『アネット』)、ルーシアン・キャステース=ティラー、ヴェレナ・バラベル

提供: TBSテレビ 配給: トランスクォーマー、TBSテレビ © Nerte Productions - CG Cinéma - S.E.I. - Rita Productions - 2022

<https://transformer.co.jp/m/jintai> X@jintai\_movie

# 11.22(金)より公開

脊柱側湾症

膀胱鏡検査

レチウス腔温存ロボット支援  
前立腺全摘除術

エンゼルケア 認知症



パリのとある大病院。当直の看護師たちの会話。「集中治療室で働くと、毎日死と向き合うから『今日を楽しむなければ』と思うの」。ある手術室では、内視鏡の映像が脳を内部から治療する様子をモニターに映し出している。別の部屋では、あまりの忙しさに医師が愚痴をこぼす。「毎週100人の患者を診て20人手術している…異常だ」病院の大動脈のような廊下を徘徊するのは、個室を抜け出した認知症患者とそれを追う医師たち。静かな時を刻んでいた地下の遺体安置所にも、次々と新たな遺体が運ばれてくる。長い1日はまだ始まったばかりだった…



本作には刺激が強いと  
感じられる映像が含まれています

PG12  
映画

明治通り沿い 地下鉄目白出口正面 ココチビル  
⑦テアトルシネマグループ  
ヒューマントラストシネマ渋谷  
03(5468)5551 ttcg.jp

有楽町イトシア イトシアプラザ4F  
⑦テアトルシネマグループ  
ヒューマントラストシネマ有楽町  
03(6259)8608 ttcg.jp